

伊東市 川奈地区協議会 WS資料  
【1・2グループ】

開催日	H27.6.2地区協議会	H27.12.2地区協議会(今回)	
分類	意見	意見	
堤防施設 (津波)		(県) ・地元との合意形成がとれば、L1津波高さに対する堤防の整備を検討できます。 ・堤防の高さについては、地元との合意形成により、L1津波高さに対する必要堤防高以下の高さに決めることができます。	レベル2にも対応できる高さ、位置は道路の海側、性能が期待できる施設を！(漁師の方の意見調整の必要あり) 小浦堤防の補強 小浦漁協前から磯根までレベル1に耐える堤防 川奈地区の海と山との地形より現状の堤防を補強し、津波の来る時間をかせぐ(この間に逃げる体制を作る) L2対応の堤防整備に地元負担があるのなら話は別→いらぬ 堤防は不要と考える 避難に力をそそぐ 堤防は何を作ってもムダ 防波堤はいらぬ いるか浜の堤防と小浦の堤防を高くし船の通る所は開閉扉の作成 レベル1
土砂災害		(県)(市) ・砂防事業、急傾斜地崩壊対策事業の活用 ・土砂災害防止法による区域指定、警戒避難体制の整備	
避難 (知恵)	地震が起きたら高台へ逃げる 船はあらかじめまず逃げる 海岸付近の家に拡声器を設置し、避難の指示に役立てる 津波の危険のある住まいは避難場所の設定 イルカ浜のお客さんに避難の方向を知らせる 津波の有無の判断 広報を待つのか 県道を通って山口さんの家まで行く。特に危険な場所はないと思う 東町1組～3組がエリア内 毎年津波避難訓練に参加している	・できるだけ高台(海から離れる)まで逃げる。(絶対はない)  ・自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いしています。  ・大地震が発生した後しばらくは余震が続くことが予想されますので、余震によるブロック塀等の倒壊にも注意が必要です。	堤防があるか浜に出来た場合、夏期に避難できる方法があるのか 沖の防波堤を延長 高さも高くして津波の浸入角度も考え波の到達を遅くする対策を考える
避難路 (避難・心配事)	避難路は通行できる状況なのか？ 自宅から避難のとき三嶋神社上の石垣が崩れる危険がある 山道(長四郎丸)の石垣が崩れる恐れがあるので危険に思われる 崩れるのが心配 行った場所でストップ？ 避難通路を逃げる道路(階段)脇の崩れで先に進めるか心配 自分が想定している避難路が通れるのか 石垣が崩れてこないか 川奈の地形での一番安全なルートが明確でない 高いところへ逃げるのに道路を横切するため、急ぎながらも注意が必要 避難路でどのコースを通ればよいのかかわからない 3分で高台まで逃げられるのか心配 どこまで避ければ安全かわからない 逃げたい場所は安全なのか かけ崩れ等 逃げ道はわかるのか	・今年度中に、津波ハザードマップを配布する予定です。避難場所までの避難経路について、自身でシミュレーションしておくことが重要です。	避難路(山へ逃げる道)を整備して欲しい 避難路を強くする 作るなら海岸道路 海側 避難路充実 堤防より避難 堤防はいらぬから避難路を整備してもらいたい 避難タワーが欲しい いるか浜に立体駐車場を作る ソフト面での対応を先に考えてはどうか 津波堤防を造るのなら中途半端な高さのものはムダ！ 堤防工事より先に避難タワーの設置 船の動きが心配→衝突の力
避難方法 (逃げない？)	揺れがおさまった時点で安心してしまっても…(逃げない) 夜だと避難路が見えない→逃げない	・大きな揺れや長い揺れを感じたら迷わず逃げる。 ・懐中電灯などの備蓄をする。	
災害弱者対策 (老人が心配)	親が階段を上がれるか心配 足が悪いとか年配の方はどうやって逃げるのか？どこに逃げるのか？ 近所の一人暮らしのお年寄りが心配 一人暮らしの老人が多い	・高齢者や障害者については、あらかじめ災害時要援護者避難支援計画(個別計画)を作成しておく必要があります。(社会福祉課で作成中)  ・発災直後は、自助、共助が必要となります。	
避難路表示 (観光客誘導)	観光客等に津波避難路の表示の充実 誘導看板がない 道路に出て県道の上へ向かって逃げます 避難経路を作ってもらいたい どこなら安全なのかすぐに判断できなくてどこに逃げるか迷う 釣り人または地元の人でない人々へのアピール(たて看板等)が不足している(海拔等の表示) 誰でもわかるように海岸の数ヶ所に津波避難場所を表示する(地図で示す) 避難路を表示する 地元の人には逃げる場所が分かるが、観光客等市外の人はどうなるのか 堤防の先端にいる釣り人の避難 ダイバーの安全対策 観光客に尋ねられたら、どのように答えたらいいのか	・津波避難方向や避難場所の表示について、今後、検討していきます。  ・自主防災会ごとに津波避難行動計画の作成をお願いしています。	
車が危ない	車と交錯 県道沿いを高台に逃げる場合、道路の横断(急カーブ)など危険がある		
情報(直前)	津波以外の災害は？ 船が波によって流されてこないだろうか？ 避難先が人で一杯だったらどうしよう？ 自分の安否を家族に知らせる方法は？ 家族の安否を確認する方法は？ 漁協事務所と離れている事務所にいる職員は避難したのか？	・Jアラート、同報無線、メールマガジン、ラジオ等により情報収集をしてください。  ・津波警報等が発令されたときは、同報無線により即座に避難に関する情報を流します。  ・安否情報は「災害用伝言ダイヤル171」を活用してください。	
情報(その後)	逃げた後にどうするのか？ 帰宅のタイミング、その手段、判断	・家族、ご近所等で、あらかじめ地震発生時の行動を話し合っておくことが重要です。	
家屋	自分の家の倒壊が心配される 自分の住んでいる家の耐震性がわからない	(県)(市)・TOUKAI-OIによる支援  ・昭和56年以前に建てられた木造住宅については、無料で耐震診断を行います。耐震補強費用の補助制度もありますので、市建築住宅課まで御相談下さい。	
火事等	火事	・電気のブレーカーを切り、ガスの元栓を閉めてください。	
仕事の心配	漁船の沖出しはどの程度できるか 事務所から重要書類を持ち出せる時間があるか	・漁業者(漁協)で津波発生時の行動計画を確認してください。	

